

ダクト発生9～7エリア間オープン情報

2006年 6月25日～26日 JG0TEV 中村

25日から26日にかけて9～7エリア間のオープンが確認されました。

6月25日のダクト発生域(推定)



ダクト発生による9～7エリア間オープンが確認されました。
21:50 JHOINE(新潟県新潟市)-J071ZC(秋田県にかほ市) RS59-59
22:51 JF9KQV(石川県七尾市)-J071ZC(秋田県にかほ市) RS51-59

北日本を中心に高気圧に覆われてダクト発生によるオープンを期待しましたが、高気圧の勢力が強くなかったことによりダクト発生域が限定されたものと考えます。

6月26日のダクト発生域(推定)



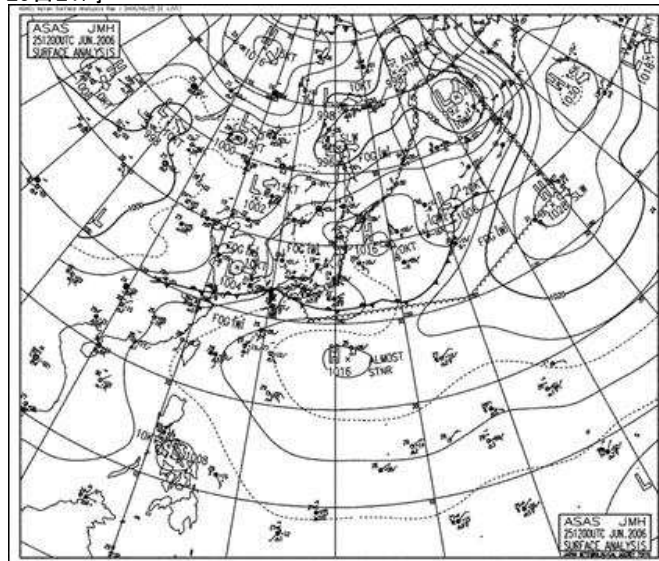
25日に続いてダクト発生による9-7エリア間オープンが確認されました。

気象解析

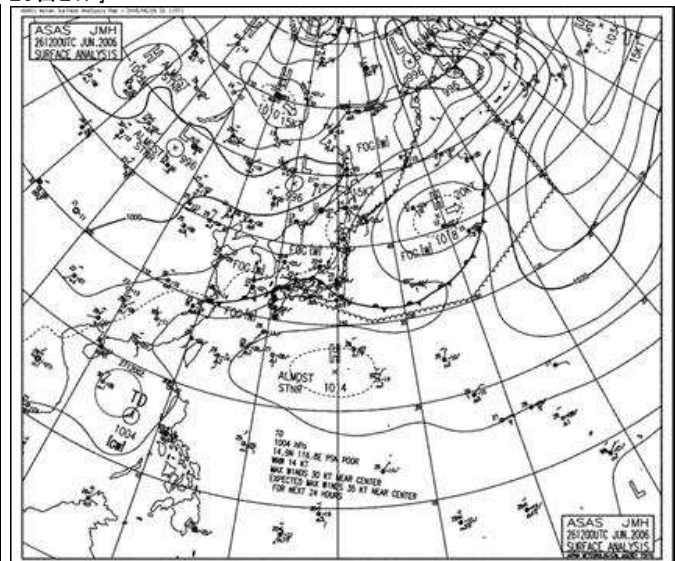
地上天気図から25日には北日本から東日本にかけて高気圧に覆われていたことがわかります。

地上天気図

25日21時



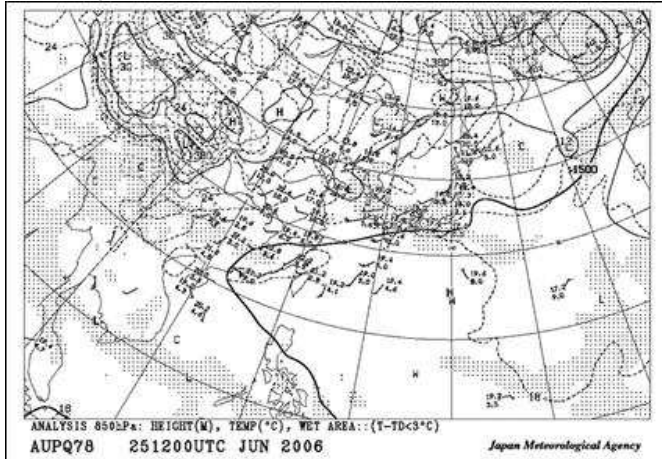
26日21時



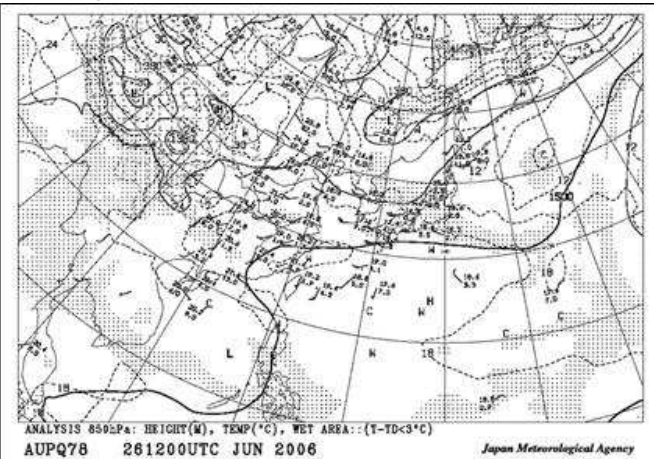
850hpa面解析図をみると、本州付近には梅雨前線に伴う湿潤域が解析されていますが、25日には日本海上に湿潤域の広がりが少ないことから乾燥空気に覆われていたものと推定します。

850hpa面高度・気温・湿数

25日21時



26日21時

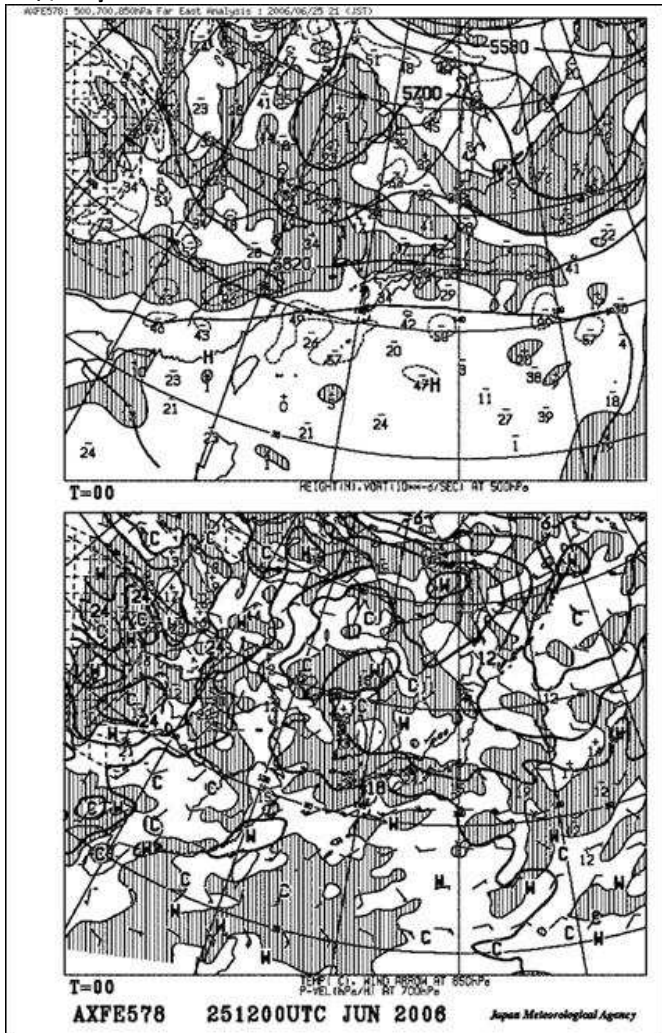


500hpa面の等高線の移り変わりを見ると、日本海には5,760mの等高線のリッジが解析されていることから、地上天気図では不明瞭だった高気圧は中層大気で明瞭になっていたものと判断します。

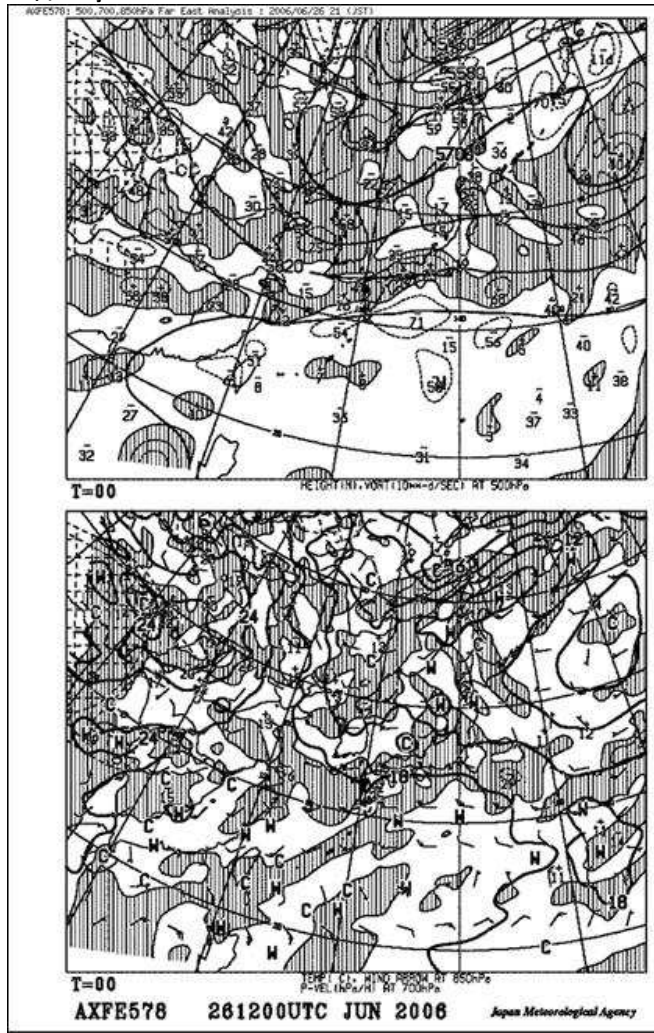
700hpa面鉛直流解析図では25日に東日本や北日本で下降流域の広がりが確認できます。

500hpa面高度と渦度・700hpa面鉛直流と850hpa面気温

25日21時



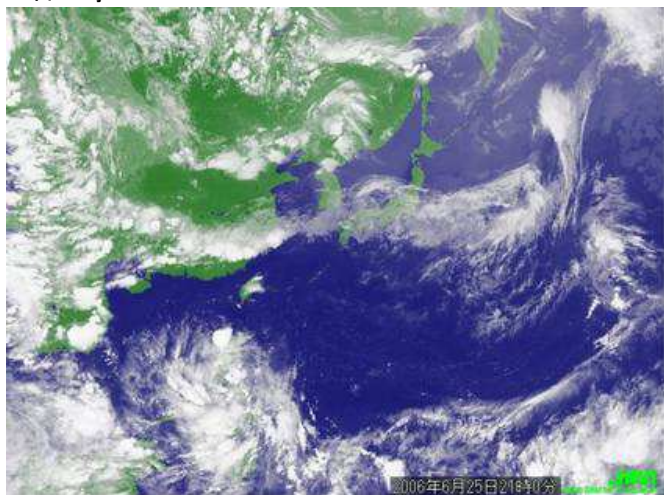
26日21時



以上から、25日には東日本から北日本にかけての範囲でダクト発生条件がそろいやすくなっていたものと考えます。26日のオープンは25日に形成されたダクトの名残であったものと推定します。

【参考】赤外線雲画像

25日21時



26日21時

